

加茂地区の人々

世帯数 2,479 世帯
 人口 5,651 人
 男 2,777 人
 女 2,874 人
 平成27年2月1日現在

かも福祉だより

平成27年3月1日発行
 第2号

発行者
 加茂地区社会福祉協議会
 事務局
 南部老人福祉センター内

平成26年度 社協の主な事業報告

楽しかった敬老会

笑って・歌って「主役はあなた」のスローガンのもと米助師匠、小笠原愛美さん、たくさんの地元の芸人さんたちのご協力のおかげで、お年寄りだけでなく会場全員が一日大いに楽しみました。



敬老会終了後、実行委員長の元に「今年、久しぶりに参加しましたが、とても楽しくてよかったです。」と電話をいただきました。みなさんに楽しんでいただき本当によかったです。ご協力くださったたくさんの方々へ深く感謝します。



主役は元気に参加して下さる「あなた」です。来年もお待ちしています。

元気の源 生き生きサロン

毎回趣向を凝らした内容で、いろいろな人とふれあい、大きな声で笑ったり、歌ったり、体を動かしたり、有意義な話を聞いて、頭を働かせたり、美味しいお弁当に手作りのつけもののお昼、カラオケでのご自慢、いきいきサロンは、参加された方の「若さ」・「元気」の源になっているようです。

- 4月＝観桜会 5月＝易しい家庭菜園
- 6月＝白鳥保育所園児演技・健康増進講座
- 7月＝加茂学園音楽部演奏



- 9月＝笑顔輝く健口作り
- 10月＝昭和村運動会参加・高滝保育所園児演技
- 11月＝里見保育所園児演技・移動交番
- 12月＝加茂学園園児演技



- 1月＝防犯講座 2月＝健康増進講座
- 3月＝地震！あなたにできること

研修視察

「施設関係者も参加して！」



11月24日関係者35人が参加して、バスでの研修視察を行いました。今回の視察先は静岡県掛川市の「ねむの木学園」でした。この施設は元歌手の宮城まり子さんが理事長を務め、主に親のいない障害児や親の虐待にあった障害児の入所施設です。施設の定員は100人、しかし先々の余裕をみて80人ほどが入所していました。

学園生活は、音楽や絵画、茶道や染色、織物や農業等多彩な授業が行われていました。創立50周年をむかえる学園では、初期入所者は既に70才を越える人もいます。私たちは色鮮やかな絵画や友禅の着物展等を見学し、障害者の作品に思わず感嘆。

また6人グループの美しい歌声で、英語での「らいおんはねむっている」や「少年」そして「ママにささげる歌」の歓迎コーラスにはすっかり魅了されました。直向きな障害者のみなさんから、教えられた1日でした。



一歩一歩 歩み始めた

富山地区

いざというときに

もし、心肺停止状態の人に遭遇したらみなさんはどうされるでしょうか？

パニックに陥ってしまおうか、急いで救急車を呼ぶのがほとんどではないでしょうか。そんなとき、救命法の知識が備わっていれば、救急車が到着するまでの間、心肺蘇生法を実施して命を救うことができるかもしれません。もしもの時に備えて、加茂分署の救急隊の職員を講師に、招いて実施しました。推進委員25名が、心肺蘇生法とAEDの使い方を実技を通して学びました。

今後は、地域住民、特に高齢者の見守り活動をどのように行うか、先進地区に話を聞きながら、実践に向けて、取り組む予定です。

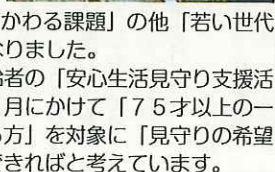


高滝地区

高滝地区ネットワークでは高滝地区内における課題と活動について検討を重ねてきました。

「高齢者にかかわる課題」や「子どもにかかわる課題」の他「若い世代への働きかけ」など多くの課題が明らかになりました。

ネットワークの1つ目の活動として、高齢者の「安心生活見守り支援活動」に取り組むことにしました。1月から2月にかけて「75才以上の一人暮らしの方」と「75才以上の障害のある方」を対象に「見守りの希望調査」を行い、27年4月から支援活動ができればと考えています。



小域福祉ネットワーク 各地区の取り組み

里見地区

本年度の活動について

26年度中に何か1つでも活動といえるものをと意気込んでいましたが、まだ準備中と申し上げるのが現状です。

里見地区では、比較的早い段階で高齢者支援活動に取り組むことを決定・ひとつには高齢者の現況調査のための方法検討、また支援対象者の範囲、実施内容とその周知方法等々の協議に多くの時間をさいて参りました。

昨年11月には「小域福祉ネットワーク」について「声掛け、見守り活動」についての勉強会を開催。ここで知り得た事項を反映させ、実質的な活動に向け前進を図って参ります。

白鳥地区

発足初年度の活動として取り組み可能な次のテーマ

- I、独居老人と高齢者を対象とした見守り。
- II、高齢者対象に「オレオレ詐欺防止」等、防犯研修会の実施。

の二点について取り組んで参りました。

発足間もない「白鳥地区福祉ネット」の存在を地区に周知するため周知ピラを作成の上、毎月配布しました。

研修会については、地区の白鳥駐在所と連携を深める意味合いもあって、駐在さんを講師に1月18日2会場で防犯研修を実施しました。今後も焦らず、福祉ネットの推進委員と連携を深め、無理なく継続可能な活動を進め、地域になくてはならない福祉ネットを目指していきたく思います。



元気でがんばる 加茂を支えるお年寄りたち

今も現役ますます元気!

木村弥さん (92才・飯給在住)

毎日朝早くから軽トラを運転して畑に出かけます。主に商品作物として自然薯を手がけ、他に茗荷栽培も行っています。毎朝4時過ぎには起きてます湯をわかし、「ベヤングソース焼きそば」で腹ごしらえ。そして軽トラで畑に出かけ、一仕事終えて帰宅。それから家族全員での朝食となります。その後も昼食を挟んでまた畑に出かけ、夕方まで農作業をします。最近は大好きであった日本酒が缶ビールに変わりましたが、毎日のお酒は欠かしません。

「健康の秘訣は？」と何うと、「畑仕事と毎朝のベヤング、それに夕食時の缶ビール」と答えられました。

弥さんの趣味は書道で、有段者です。



一人で建てた資材置き場の屋根を張る弥さん

米寿なんて、まだまだ早い!

「会長さん」「支部長さん」

呼ばれて元気に手を挙げているのは、鎌滝弥太郎さん

(昭和2年生まれ・88才・古敷谷在住)

地元老人会、加茂支部長、地域内各種団体等の役員、高齢者の代表として今日も元気に車で走り回る。年齢の若い会員の中でも背中を「ピン」と伸ばして活動している姿は、「米寿」の人とは思えないほど。

「元気の源は？」と何うと「嫌なことがあってもいつまでも拘らず、くよくよしない。」だそうです。「食べ物の好ききらいはないが、果物、野菜はよく食べる。酒類は少量の晩酌を楽しんでいる。

1日1万歩目標に愛犬「竜」と朝夕の散歩するがなかなか達成できない。もう一つの楽しみは、老人クラブ・ふれあいクラブの若い人たちとグラウンドゴルフを楽しみながら、「そのエネルギーをいっぱいもらい自家充電している。」と話されていました。



仕事 ^{コール} ニ 一番楽しい時間

高山昌昇さん (95才・月崎在住)

16才から屋根ふきの仕事を始め、体調を崩して44才で退職し、56才まで武内鉄工所で働き、その後川鉄の線路杭夫の仕事をしていました。

退職後は、家業の店の掃除、草取りをはじめ、空き箱、ペットボトル、空きかんの片付けを1日に3回、欠かさず行うのが日課。

朝は4時に起きて、すぐに着替えを済ませ、こたつで新聞を読み、朝食をとって8時が1日の仕事の始まり。テレビを見ながら、20時には就寝するそうです。

おじいちゃんの一言

「仕事をしている時が一番楽しい時間」



無理しないで野良仕事

石井正雄さん (95才・養老在住)

晴天の少し暖かい日。お話を伺いに訪ねると、裏の畑で元気にねぎの収穫の作業中でした。

健康の秘訣は、「自分で出来る野良仕事を無理しないで、楽しく動いてすること。」

好きな食べ物は、「甘いものだが、暴飲暴食は絶対だめ」とのこと。

95年生きてきて今までに一番印象に残っていることは、「大正12年の関東大震災を経験したこと。」

「これからも1年1年健康に気をつけて過ごしていきたい」と話されておりました。



いつまでもお達者でお過ごしください



子どもたちのために、加茂の皆様のご更なるご支援を宜しくお願い申し上げます。

行事としては、毎年一〇月に実施しています市民体育祭がメインとなりますが、地区のスポーツレクリエーションのグラウンドゴルフ大会、ウォーキング大会などを企画・立案して、町会長さんや各種団体のみなさんに協力を得ながら、参加されているみなさんの笑顔を見ることができるのを楽しみに頑張っています。今後ともみなさんのご協力をお願いいたします。

加茂地区スポーツ推進委員は、高滝、富山、里見、白鳥の各地区より二名ずつ推薦され、加茂地区社会体育振興会の事務局を担当しながら、「スポーツで地域を元気に」をモットーに総勢八名で活動しています。

加茂地区スポーツ推進委員

青少年相談員

私たち青少年相談員は、三年を一任期として加茂支部十二名で活動を行っています。

加茂の子どもたちが少子化による学校の統廃合の中、近所にある学校ではなく、新しい加茂学園での生活での知らない友達や先生の中で不安を感じながら生活していたのは想像に難しくありません。そんな中、少しでも魅力ある青年期を過ごしてもらうため、地域一体となって支援していこうというのが相談員の活動であります。

活躍する各種団体紹介